

# 令和5年 第9回福祉医療常任委員会所管事務調査報告書

令和5年11月20日

別海町議会議長 西 原 浩 様

福祉医療常任委員長 外 山 浩 司

福祉医療常任委員会の所管事務の調査を実施したので、別海町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

## 記

### 《第9回》

#### 1 日時

令和5年11月20日（月） 午前10時00分から午前11時30分まで

#### 2 開催場所

委員会室2・3及び現地

#### 3 出席委員

外山委員長、宮越副委員長、中村委員、小椋委員、高橋委員

#### 4 欠席委員

なし

#### 5 委員外

なし

#### 6 調査事項

（1）町立別海病院の運営について

#### 7 説明員の職と氏名

病院事務長 三戸俊人、病院事務課長 槇木直人、病院事務課主幹 大森圭介  
病院事務課主幹 奈良司  
福祉部長 干場みゆき、福祉部次長 谷村将志、介護支援課長 高橋勇樹

## 8 調査結果

### 【病院所管事務調査】

#### (1) 町立別海病院の運営について

- ・質疑等については、要点記録のとおり。
- ・発熱外来への対応

11月中旬からインフルエンザが流行し始め、再び発熱外来の患者が増えている。

11月17日（金）は、診療が終了したのが午後8時。

50人前後の発熱外来患者が受診。

- ・電話が繋がりにくい状況の改善には、回線がもう1回線増えることで受付と問診がスムーズになるのではないかと。
- ・検体を取り、その後長い時間、車などで待つ状態なので、別海在住の人は、自宅で待機できないか。

結果が出たら、連絡をもらい病院へ再び行き、診察を受けることができないか。

西春別や尾岱沼は距離的に難しいと思われる。

- ・現場で働いている人と患者の負担が、より少ない方法はないか。

機能的な外来の受付システムの作成、業務フローの作成について、次回以降に確認する。

- ・理事者と病院(医院長等)と、これからの別海病院のあり方や目標などについて話し合いが大切ではないか。コロナ禍もあり、話し合いが行われていない。

- ・若い看護師の離職が多い。

他の病院からの誘いなどもある。誘いの中には、借りている奨学金を負担してもいい条件もあるようだ。

- ・中堅、ベテラン看護師へ負担がかかっている。

夜勤時の新人への指導、緊急時での呼び出し等の対応。

スタッフが十分でないので、有給休暇も取れない状況もある。

- ・看護師の定着が望まれる。

単に、給与だけでなく処遇の問題や別海病院で働く喜びを感じられる職場づくりが望まれる。そのために、これから作成されるコンサルとの経営診断などで取り組んでもらうべきである。

## 9 その他

### 【福祉部】

#### (1) 東部地区の高齢者施設御見学・懇談。

- ・施設名 地域密着型介護サービス「愛遊夢」
- ・対応者 福祉部 干場部長、谷村次長、高橋介護支援課長  
サン・ラウン株式会社 板谷代表取締役、他職員2名
- ・施設見学 「特別養護老人ホーム 愛遊夢」「多機能型居宅サービス 愛遊夢」  
「地域サロン 遊海」
- ・懇談内容 ・特別老人ホームの入居者は、現在17名。  
満員の19名の時もあったが入院により退所した人がいる。

- 懇談内容
  - お風呂は、椅子に座ったまま入浴。  
一人ごとにお湯を交換している。  
週に2回が基本だが、毎日入浴する人もいる。
  - 1階の事務所と食事や人が集うリビングにエアコンが設置されているが、他は扇風機。  
1階フロアーが床暖房になっていて、その余熱で2階も暖かい。  
これから、初めての冬を迎える。
  - スタッフは総勢39人。  
別海町以外の職員は、羅臼町、標津町、中標津町、根室市から通勤している。
  - 外国人が5名勤務。  
ミャンマー4名、フィリピン1名で22歳から36歳。  
母国で介護の勉強と日本語を勉強してから、来日となる仕組み。  
母国に仕送りをしている。  
町の支援で、公営住宅に入居できている。  
施設として、日常生活支援なども行なっている。  
(この辺では、外国人雇用に支援金を支給しているのは、釧路市と別海町のみである。)
  - 地域行事(えび祭、盆踊り等)への参加や地域の学校と交流も行なっている。
  - 消防の指導を受けながら、避難訓練を実施している。  
車椅子の人もいるが、エレベータの使用をせずに、背負ったりの避難が早く建物から逃げることができる。
  - サロン  
週3回(月、水、金)10時から14時50分まで  
(曜日によりプログラムが違う)  
利用者は、尾岱沼、中春別方面から10名ほどいたが、全員が女性。
  - 居宅サービス  
スタッフの体制により、日数の多いショートステイは、相談に応じている。(夜勤体制の問題など)
  - 遠方からの通勤者が多く、冬期間泊まれる場所の確保が必要。
  - 施設への就職を働きかけると、住居が課題となり雇用に結びつかない場合がある。

以上